

# JA全農 WEEKLY

4面

## 長澤会長ら千葉、茨城、佐賀、長崎の豪雨・台風被災地を訪問 (広報・調査部)

3面



円滑な米流通を目指すJA全農山形庄内南部ライスステーション(3面)



多くの来店客でにぎわう台湾にオープンした台湾全農インターナショナル(株)の直営販売店「じゃじゃ」(2面)



佐賀県で浸水・油流出の被害を受けたハウス(キュウリ栽培)を視察する全農の長澤豊会長=左から3人目(4面)

2 豪州で飛驒牛をトップセールス (岐阜県本部)

台湾に直営販売店「じゃじゃ」オープン (台湾全農インターナショナル(株))

3 第37回全農酪農経営体験発表会を開催 (酪農部)

5 食品ロス削減へECサイトで直売所の農産物販売(営業開発部・福島県本部)

6 JAズームイン(岐阜:JAいび川)

7 JAズームイン(静岡:JA大井川)

8 あまおうアイスバー発売 (くらし支援事業本部)

JAタウンショップ紹介 近江の味彩(JA全農しが)

JA全農山形庄内南部  
ライスステーション竣工、稼働(山形県本部)

Web版JA全農ウィークリーは  
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web  
限定

ハギトモ水泳教室で  
水泳の楽しさと食の大切さを伝える  
(広報・調査部)

News!



## 豪州で飛騨牛をトップセールス

輸出拡大へ岐阜県知事、県本部の会長らがPR

岐阜県本部

岐阜県と岐阜県本部などで行う岐阜県農林水産物輸出促進協議会は9月11～14日、オーストラリアで飛騨牛輸出拡大に向けたトップセールスを行いました。

飛騨牛海外推奨店に認定したメルボルンとシドニーのレストランでは、古田肇岐阜県知事と岐阜県本部の足立能夫運営委員会会長が認定証と銘板を授与しました。また、シドニーの日本食レストランで、飛騨牛やアユなど県産食材をPRしました。

県は大手食肉卸売業者のグローバル・ミート社との



飛騨牛海外推奨店の認定証と銘板を授与する古田知事（左から2人目）と足立会長（同4人目）

間で飛騨牛のブランド力強化に関する覚書を締結。締結式に先立って、同社と取引のある飲食店のシェフ約100人を対象に飛騨牛のカットに関するセミナーを行いました。

このほか、メルボルンの料理学校で飛騨牛の調理講習を行うなど、飛騨牛の輸出拡大に向けPR活動を展開しました。



メルボルンの料理学校で行った飛騨牛の調理講習

News!



## 台湾に直営販売店「じゃじゃ」がオープン

日本の農畜産品や加工品、ジェラートを販売

台湾全農インターナショナル(株)

台湾全農インターナショナル(株)は9月6日、台北市内に日本の農畜産品や加工品を販売する直営店「じゃじゃ」をオープンしました。

「じゃじゃ」では、日本から輸入した農畜産品(米・果物・和牛など)や加工品(ジャム・ジュース類など)をはじめ、日本産米・果物を使用したジェラートを販売しています。加えて日台友好の取り組みとして、台湾農会(日本の農協に相当)の特産品も取り扱っています。

店名の「じゃじゃ」は、台湾語で「ここ、ここ」「これ、これ」を意味し、「JA」をかけています。



地元メディアの取材を受ける台湾全農インターナショナル(株)の野末知裕社長

開店初日には150人近くのお客さまに加え、現地メディアも取材に訪れ、ジェラートなどが売り切れてしまったほど盛況でした。

今後は、各産地フェアも展開していく予定です。全農は、このような取り組みを通じて、「生産者と台湾の消費者を安心で結ぶ懸け橋」になるよう努めています。

多くの来店客でにぎわったオープン初日



多くの来店客でにぎわったオープン初日

## 庄内南部ライスステーションが竣工、稼働

国内最大規模の保管施設で円滑な県産米流通を目指す

山形県本部



長さ175mの屋内トラックレーンを整備したJA全農山形庄内南部ライスステーション

山形県本部は9月20日、連合農業倉庫として国内最大規模の米広域集出荷保管施設となる「JA全農山形庄内南部ライスステーション」の竣工式を行いました。山形県本部の長澤豊運営委員会会長をはじめ、行政、JA関係者約70人が出席。施設運営の安全を願う神事や、完成を祝うテープカットを行い、同日、新たな拠点稼働しました。

三川町に建設した同施設は、鉄骨造りの平屋建て、延べ床面積は約1万3000平方mで、庄内地区にある連合倉庫の集約再編、管理費コストの削減を目的に、総事業費約24億円で建設。米を15度以下で保管する低温貯蔵庫10室を備え、最大約2万5000トンの収容が可能です。農産物検査場も併設し、フレコンによる集荷・検査に対応するほか、幅15m、高さ7m、長さ175mの屋内トラックレーンを整備し、悪天候でも米が濡れることなく出荷できる環境となっています。

式典のあいさつで、長澤会長は「庄内南部ライスステーションは、高品質で理想的な保管と作業効率を確保できる。今後も山形県が米の主力産地であり続け、次世代を担う生産者が安心して生産できるよう取り組んでいく」と強調しました。

## 第37回全農酪農経営体験発表会を開催

全国から選ばれた酪農経営者が自らの経営・技術を発表

酪農部



自らの体験について発表した酪農経営者の皆さん

酪農部は9月13日、東京・大手町の日経ホールで「第37回全農酪農経営体験発表会」を開きました。

この発表会は、全国から選ばれた優秀な酪農経営者の方に、経営内容や技術を自らの体験を踏まえ発表してもらうものです。

審査委員特別賞は北海道の浦薫さんと島根県の板井雄士さんが受賞しました。

この日、全国各地から参加した6人が発表。最優秀賞には、高水準の乳量・乳質に加え、学校給食専門の乳業会社を立ち上げるなど積極的な地域貢献が評価された、静岡県佐々木剛さん

併催の「第13回全農学生『酪農の夢』コンクール」では、全国から集まった227作品の中から最優秀賞に輝いた鈴木なごみさん（帯広畜産大学3年）が「人生を変えてくれた酪農く私らしく生きる」を披露。作品の中で語られた恩人の酪農家が壇上にサプライズ登場し、感動の拍手がありました。



「酪農の夢」コンクールで最優秀賞を受賞した鈴木さん

全農酪農経営体験発表会のサイトはこちら



長澤会長ら千葉、茨城、佐賀、長崎の豪雨・台風被災地を訪問

# 復旧・復興に向け グループ一丸となり 全力で支援

長澤豊会長ほか全農役員は、豪雨・台風で被災した千葉県、茨城県、佐賀県、長崎県を訪問しました。  
〔広報・調査部〕



千葉県JAいちかわ管内の梨生産者荒井一昭果樹部会長（左）の圃場（ほじょう）を視察した長澤会長（中央）。右は同JAの今野博之理事長。落果しなかつた梨も、傷が入ってしまったものが多い

長澤会長は山崎周二理事長、吉見均常務と共に、9月9日に台風15号の直撃を受けた千葉県のJAいちかわを9月17日に訪問。被害を受けた梨農場を視察しました。

千葉県の被災地に対して全農は9月下旬、JAグループ千葉からの要請で職員を派遣し、廃棄物撤去作業などを行いました。大澤憲二副会長は、野口栄専務と共に9月24日、同じく台風15号で被災した茨城県を訪問しま

した。

また、長澤会長は山崎理事長、倉重徳也常務と共に、8月下旬の豪雨で被災した佐賀県、長崎県を9月24日に訪問しました。佐賀県では浸水・油流出の被害が発生した大町町を視察しました。

長澤会長は、「被災された方々に心からお見舞い申し上げます。被災地の復旧・復興に向けて、グループ一丸となり全力で支援していきたい」と述べました。



JA茨城県中央会の佐野治会長（右から2人目）にお見舞を渡した大澤副会長（同3人目）、野口専務（同4人目）。右は棚谷保男茨城県本部副会長



千葉県JAかとり管内で、強風でつぶれたハウスの撤去作業をする千葉県本部職員



長崎県内の被害状況を説明するJA長崎県中央会の泉義弘会長（奥左から2人目）。水稲の倒伏やハウスの浸水が多く発生した

佐賀県で浸水・油流出の被害を受けた大町町のハウス（キユウリ栽培）を視察した。左からJAさかの金原壽秀会長、全農の山崎理事長、長澤会長。油を含む水で170センチの高さまで浸水した



# 食品ロス削減へECサイトで

# 直売所の農産物を販売

営業開発部と福島県本部は9月から、食品ロスの削減をテーマにしたECサイト「tabeloop」で、福島県本部が運営する直売所「愛情館」の農産物の販売を始めました。また、9月7日に同サイトの運営会社などと協働し、都内マンションでマルシェを実施しました。

【営業開発部・福島県本部】

**規格外農産物などを  
ECサイトで販売**

「tabeloop」は、バリュードライバーズ(株)が運営する会員制のECサイトで、市場では扱えない規格外の野菜・果物や、賞味期限が近く既存の流通では扱ってもらえない加工品など、食べられるのに廃棄になってしまう商品を取り扱っています。現在の会員登録数は、売り手が約200、買い手が約1万に上ります。

営業開発部では、直売所で

**都内のマンションでマルシェも**



多様な食材が出品・販売される「tabeloop」

売り切れずに生産者に返す農産物や、これまで取り扱わなかった規格外品などを、「tabeloop」を使って補完的に販売することを企画し、賛同した福島県本部とともに取り組みを始めました。これ

によって、店舗のロスを削減するとともに、生産者の手取りの拡大を図っていきます。今後、他の直売所とも取り組みを広げていきたいと考えています。

**都内のマンションで  
不ぞろい農産物など販売**

東京・豊洲のマンションで9月7日、「tabeloop」を運営するバリュードライバーズ



食品ロス問題に関する資料を展示

ズ(株)、マンションを分譲した三井不動産レジデンシャル(株)と協働してマルシェを実施。店舗では扱いづらい、熟度が進んだ桃や不ぞろいのキュウリなど、「愛情館」から直送した農産物12品目を販売しました。果物が開始後2時間で完売するなど大盛況で、約12万円の売り上げとなりました。マンションの住民からは「日本でこんなに食品ロスが出ていなんて知らなかった」「廃棄になつてしまう原因を聞くと、ちゃんと余らせずに消費しようと思う」などの反応がありました。今後、同様の取り組みを他のマンションでも実施し、新たなニーズへの取り組みを広げていきます。



「tabeloop」  
サイトは  
こちら

東京・豊洲のマンションで開いたマルシェ



# 農業者の所得増大に 業務加工用野菜導入

## JAいび川 (岐阜県)



概要	平成31年3月31日現在
正組合員数	8353人
准組合員数	6792人
職員数	288人
販売品取扱高	24億1千万円
購買品取扱高	26億9千万円
貯金残高	1570億3千万円
長期共済保有高	3485億3千万円
主な農畜産物	米・大豆・茶・柿・イチゴ・梅など

JAいび川は第8次中期経営計画(平成28~30年度)で、「農業者の所得増大」を基本目標の一つに掲げました。目標を実現するため、実需者ニーズに合う業務加工用野菜(キャベツ・タマネギ)の生産拡大や販売強化に取り組んできました。営農涉外担当者(TAC)による複合品目栽培提案、作業の省力化や



訪問活動で農家のニーズを把握

コスト削減対策を実践しました。

### 専任のTAC職員を配置 他の部署と情報共有し対応

担い手農業者を訪問するため、28年度にTAC職員を1人専任としました。その後、「TAC職員が訪問し、さまざまな情報を提供してほしい」との農業者の要望を受け、30年度には4人に増員。訪問先で得た農業者のニーズを毎週開いているTACミーティングで、TAC職員だけでなく、融資や企画管理担当者など部署間で共有。業務加工用野菜の作付けについて提案し、栽培面積の拡大につなげたり、農業関係の助成金や農業関連融資などの情報を提供し



播種機の使い方を指導する営農職員

てきました。

農業者への訪問活動は、48経営体に延べ809回(28年度)から、265経営体に延べ2255回(30年度)に増えました。農業関連融資は融資案件50件、融資額は1億5000万円(28年度)から、融資案件98件、融資額は3億7000万円に増えました。

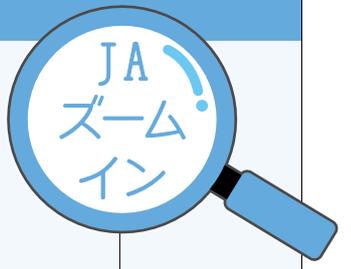
ト削減も欠かせません。JAでは播種機や収穫機の実演会を定期的に行き、機械活用による省力化や作業時間の短縮について説明し、機械導入による大規模栽培を推奨してきました。また、機械の購入費や維持費を削減するため、レンタルサービスも実施。機械の操縦について職員が指導するなど、多面的にサポートしてきました。

### 拡大する業務加工用野菜 新たにハウレンソウ導入へ



ハウレンソウ収穫機の実演会を開催

これらの活動で業務加工用野菜の栽培面積は、13畝(28年度)から15畝(30年度)に拡大しました。一方、労力と収入のバランス、土壌改良の必要性、水稲と栽培時期が重複するなどの課題もあ



# 交流拠点「KADODE OOIGAWA」

## 魅力発信へ来年秋にオープン

### JA大井川 (静岡県)



概要	平成31年3月31日現在
正組合員数	1万8144人
准組合員数	3万5698人
職員数	944人
販売品取扱高	90億5千万円
購買品取扱高	40億5千万円
貯金残高	5544億2千万円
長期共済保有高	1兆5761億8千万円
主な農産物	お茶、トマト、レタス、イチゴ、米、バラ、ミカン

JA大井川は焼津市・藤枝市・島田市・川根本町を管内とし、大井川流域の豊かな土壌、温暖な気候に恵まれた地域で農産物がつくられています。

「JA管内の農業を元気にしたい!」。その思いから、「日本の緑茶」と「大井川流域の農産物」の魅力を発信する体験型フードパーク「KADODE OOIGAWA」を来年秋にオープンします。



「KADODE OOIGAWA」のロゴマーク  
また、SLが走る大井川鐵道の線路

### 4者連携の新プロジェクト

この事業は、JA大井川、島田市、大井川鐵道(株)、中日本高速道路(株)の4者連携によるプロジェクトで、施設の運営会社としてJA大井川の子会社「KADODE OOIGAWA(株)」が昨年11月に設立されました。

予定地は、静岡県のほぼ中央に位置し、新東名高速道路の島田金谷ICを降りてすぐ、富士山静岡空港から車で20分と広域からのアクセスが便利な立地です。



「KADODE OOIGAWA」の全体像

沿いにあり、この施設に新駅が設置される予定です。  
施設名の「KADODE OOIGAWA」には4者連携事業や交通の結節点である立地を踏まえ、大井川

流域の農業と地域交流の玄関口にふさわしい新たなランドマークとして、上質な時間や地域の魅力を体感する出会いの場でありたいという思いを込めています。

### 緑茶と地域の農産物 五感で魅力を体験

施設は、五感で楽しむお茶ゾーン、新鮮な農産物が買えるマルシェ、緑茶の魅力を気軽に楽しめるカフェ、お茶や農産物をテーマにした子どもの遊び場、SLを見ながら食事ができる野菜レストラン、大井川流域の観光スポットを案内する観光拠点を構えます。

JA大井川が培ってきた農業振興や売り場づくりの強みをベースに、集客力に



SLを見ながら食事ができる野菜レストラン(イメージ図)

優れた話題性のある専門店や観光事業を融合させた新たな商業施設となります。多くの地域団体と連携し、にぎわいを創出する魅力ある施設をプロデュースしていきます。

福岡県産イチゴ「あまおう」と秣甘酒の深い味わい!

「福岡県産あまおうの果汁使用 アイスバー」を発売



全農は10月1日から、「福岡県産あまおうの果汁使用 アイスバー」を発売します。

【くらし支援事業部】

甘酒は栄養が豊富なことから「飲む点滴」とも言われ、市場規模が大きく成長しています。

今回発売するのは、みそ・こうじ食品メーカーのマルコメ(株)の「秣甘酒」を、福岡県産イチゴ「あまおう」の果汁で包み込んだアイスバーです。甘酒の優しい甘さと香り高い「あまおう」の風味が楽しめます。

この商品は、全農オリジナル商品ブランド「ニッポンエール」として販売します。「ニッポンエール」は、「日本全国47都道府県から届けられる日本産のたべものに、そしてにっぽんに、ここからエールをおくろう」がコンセプトで、今年4月に発売したドライフルーツから始まり、商品展開を進めています。

イトーヨーカ堂やナチュラルローソンなど首都圏を中心にスーパー・コンビニでの販売を予定しています(一部取り扱いのない店舗もあります)。

ぜひご賞味ください。



食と農のWEBマガジン

Apron エプロン

Web限定の「レシピ検索」「菜園づくり」etc. ぜひご覧ください!

Webマガジンは  
こちらから

Apron Web 検索  
<https://apron-web.jp/>



JAタウン | 検索 クリック

近江の味彩 (JA全農しが)



JAタウンは  
こちらから



滋賀県産 みずかがみ10kg  
(5kg×2袋).....5990円

滋賀の豊かな食材をお届けする「近江の味彩」から、近江米「みずかがみ」をご紹介します。

「みずかがみ」は、豊かな水に輝く実りをキャッチフレーズに、滋賀県が育成した品種です。

琵琶湖をはじめとする滋賀県の豊かな自然環境に配慮して栽培された「みずかがみ」は、炊き上がりはキラキラつややか。ほどよい粘りと、まるやかな甘み。冷めてもおいしく、お弁当やおにぎりにも最適です。

全国の育ちざかりの子どもたちに、おなかいっぱい食べて欲しい!

「みずかがみ」には、そんな滋賀県の農家さんの思いがたくさん詰まっています。

JAタウン「近江の味彩」では、令和元年産の新米「みずかがみ」を用意しております。この機会にぜひご賞味下さい。

JA全農のインターネットショッピングモール ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>  
▶お問い合わせは [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。

